



JA いしかり



9P

新連載

“還暦おやじ”の新人農業者手帳

ゆうさ ひるふみ
平成27年度新規就農者 遊佐宏文さん

2018
1月号

Vol.346



賀正

新年あけまして
おめでとーうございませす



石狩市農業協同組合
代表理事組合長 中村 武史

新年明けましておめでとーうございませす。

組合員の皆様におかれましては輝かしい新年を迎えられ、健やかに過ごされたことと心よりお慶び申し上げます。

また日頃より農協事業に際しまして特段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年の当農協管内の農業を振り返りますと、降雪量が少なかった事により融雪も早く、春作業は順調に進みましたが6月は低温、7月は真夏のような暑さが続き、秋以降は雨が多くの作物の肥培管理には大変苦労した年でした。

収量面では、各作物ともほぼ平年並みの反収となりましたが、価格面ではかつてない高値相場が続いた昨

年とはうって変わり、夏から秋にかけて安値相場が続き、生産者にとりましては厳しい年となりました。

また麦作は秋・春小麦共に細粒傾向ではありましたが品質・収量では概ね良好な結果となり、水稲も作況指数が105の豊作となり品質も良く、低タンパク米の出荷比率も約55%という大変素晴らしい結果となりました。特に石狩管内のゆめびりかコンテストに於いて石狩産米が金賞を受賞した事は生産者皆様の日頃の努力の賜物であり、誠に喜ばしい出来事でありました。

さて農政に目を向けますとトランプ大統領の誕生によりアメリカがTPP交渉から離脱したのも東の間、アメリカ抜きのTPP11が大筋合意し、その後、日EU間のEPA交渉も大枠合意という結果を迎えました。

JAグループ北海道は合意内容の丁寧な説明と農業経営に及ぼす影響の検証を政府に求め、生産現場に不安を与える事なく農業者が希望を持つて営農に取り組めるようしっかりとした対策の実現を求めています。

また唐突とも思える主要農産物種子法の廃止や卸売市場法の見直し等、農業現場や関係者の声を軽視した改悪の動きは何としても阻止しなければなりません。

一連の農協改革の動きについても第28回JA北海道大会で決議された北海道550万人と共に創る力強い農業の実現と豊かな魅力ある農村の実現に向け、当農協で現在策定中の第6期地域農業振興計画・第6次中期経営計画の中で具体化し、組合員皆様の営農経済の発展の為に役に立てるよう進めてまいります。

近年は異常気象が毎年当たり前のように発生しますが、組合員の皆様も今後とも安心して営農に打ち込めるよう役員一同力を合わせて地域農業発展の為に頑張っていきたいと思っております。

組合員皆様が今年も健康で事故なく豊穡の秋を迎えられることを心から祈念申し上げます、年頭に当たってのご挨拶といたします。



平成30年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
会長 飛田 稔 章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成30年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます次第です。

昨年の北海道農業は、春先は晴れの日が多く、気温も高かったことから農作業・生育も順調でありまし

た。9月中旬以降は、雨の日が多く収穫作業が遅れが発生し、特に9月18日の台風18号によって、全道的にデントコーン・水稲の倒伏、農業施設の損壊などにより、農作物の品質、収量に懸念が生じたところでした。

しかしながら、結果的には、米は、作況指数が103の「やや良」、小麦・てん菜は、収量・品質とも平年作、生乳は、全般的に安定基調と組合員の皆様の努力の成果が報われた1年となりました。

平成28年9月に4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生し、その傷も完全に癒えない中ではあります。昨年元旦に新聞紙上で意見広告を行った『それでも種をまく。』という農民魂のもと、JAグループ北海道は着実に前を向いて歩んで参ります。

一方、国際貿易交渉の状況は、TPP11、日EU・EPA、米国との貿易交渉など、その進展状況と合意内容、農業経営への影響など生産現場に十分伝わっていないこともあり、将来への不安を抱え、担い手の生産意欲の減退が懸念される所です。

農協改革、規制改革では、生産資材価格の「引き下げ」と「見える化」、牛乳・乳製品の生産・流通においては、新たな加工原料乳生産者補給金制度を盛り込んだ改正畜産経営安定法が成立するなど農業政策対応に追われた1年でありました。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、JAグループ北海道は、第28回JA北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る 力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図っているところであり本年はその総括年度となります。

昨年はJAグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信すべく、新規担い手倍増と550万人サポーターづくり、准組合員制度をテーマにJA北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、JAグループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指して参ります。

関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

結びになりますが、今年の干支は戌（つちのえいぬ）です。

一説には、戌は、「茂」に通じる意味があり、「植物の成長が絶頂期にある状態」を表しているとのことでもあります。

今年はこの戌年にあやかり、天候に恵まれ実り多い豊穡の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶といたします。



石狩市農業協同組合青年部
部長 山内克彦

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日頃より当JA青年部活動に対しまして特段のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の青年部を振り返りますと、まず初めに設立30周年という節目を迎えることが出来た点が挙げられます。11月14日に部員、OBや来賓等総勢52名の盟友のもと設立30周年記念式典を開催しましたが、昭和63年より設立された当青年部がここまで歴史を紡ぐことができたのもひとえに皆様のご理解とご協力の賜物であると、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

6月のソフトボール大会では石狩地区開催となりスポーツ広場にて汗を流し、部員間の親睦と他地区青年部との交流を図りました。視察研修では斜里郡小清水町にて収量が10a1トン超えの麦の視察、7月には農村ホームステイ事業として保育園や小学校の教諭を受

け入れし、農作業を通じて農業の魅力を伝えられたかと思えます。幼P連の食育事業では農機具の展示、8月のまるごとフェスタではステージイベント企画として「みんなあつまれ食農ひろば！石狩産農産物大豊作クイズ」を開催し、石狩産農産物のPRに努めました。

平成23年度より続けているさつまいも事業では、今年が生食用2品種「鳴門金時」「シルクスイート」と加工用として「紅まさり」とに分け栽培、出荷をしました。とれのさとの対面販売では、生食用販売のほか、焼き芋や昨年作製した芋焼酎「芋男氣」の同時販売も行いました。このさつまいも栽培事業がJAグループ北海道提供のテレビ番組「あぐり王国北海道NEXT」（HBC放送）で取り上げられるなど大きな躍進を遂げた年であったと振り返ります。

さて、昨今の農業情勢を振り返ると非常に厳しい状況が続いているのは否めません。昨年1月26日にアメリカがTPP脱退を表明していくつかの項目が事実上凍結状態となりましたが、アメリカはその後二国間自由貿易協定の締結へとシフトするとの旨を発表しているため、依然予断を許さない状況です。また7月6日のEUとの経済連携協定をはじめ国内外に様々な懸念材料がございますが、農業全体が今まさに転換期であるという事実を理解し、残された時間の中で次世代へ繋げるための活路を見いだすべく、部員とともども試行錯誤していききたいと考えています。

結びになります。平成30年が皆様にとつて実り有る良き年でありませうと祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。



石狩市農業協同組合女性部
部長 川崎寿子

新年 明けましておめでとうございます。皆様に於かれましては、ご家族で素晴らしい新年のスタートを迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますとご支援とご協力を頂きながら様々な事業に取り組んで参りました。

6月には一泊二日で函館方面へ視察研修に行きました。函館カール・レイモン本社工場の見学、あぐりへい屋での研修では運営状況、加工に関するお話を聞くことが出来ました。参加された部員の皆様に於かれましては、忙しい中であつて、久しぶりの遠征となりましたが、温泉に入り美味しい料理を堪能してリフレッシュできたことと思います。

8月には市内幼稚園児と父母を対象にした食育バスツアーが開催されました。役員一同で地場産野菜をふんだんに使った作ったカレーライスは、参加された皆さんに大変好評で

した。「石狩まるごとフェスタ」では、ゆでとうきびを二日間販売しお客様から甘くて美味しいと喜ばれ完売することが出来ました。又、加工事業では、コーンスープ、いもちの他に新たな加工品（さつまいも）製造に取り組み1月からの販売を予定しています。

12月には内部研修として味噌造りを行っております。事業への参加人数が減少の中、参加者の負担も増えておりますが、部員皆さんの頑張りがあつてこそと思ひますし、地域の活性化に貢献するべく魅力ある事業を行っていききたいとも考えています。

今後は、女性農業者の活動しやすい環境が求められていると感じます。農家戸数の減少や高齢化、農業情勢は厳しさを増す中、目を向ける事にはきちんと目を向けて地域住民とのつながりを大切にしながら今後も女性部として事業に取り組んで行きたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。新しい一年が皆様にとって健康で輝かしい一年でありますようにご祈念し、新年のご挨拶と致します。



新しい年を迎えて



石狩農業改良普及センター
石狩北部支所
支所長 増子 優子

新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた平成30年の新春をご家族とともに迎えられることを、心からお慶び申し上げます。また、日頃より普及センターの活動に対し、皆様には特段のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年の気象と作況を振り返ってみますと、積雪が少なく、融雪期は平年より12日早まり、ほ場の乾燥が順調に進みました。耕起盛期は畑地で8日、水田で2日早く、野菜のは種・定植作業も順調なスタートを切る事ができました。

しかし、6月の記録的な降雨、7月前半の高温多照と後半の多雨、9月以降は断続的な降雨と不安定な天候が続き、は種・移植作業や防除等の管理作業、また、収穫作業にご苦労された方も多かったと思います。

このように、最後まで予断を許さない状況が続き、気苦労の多い1年だったとお察しします。

水稲の収量は、平年を上回り、品質も良好でした。秋まき小麦は、平年以上の多収でしたが、製品歩留まりは低めとなりました。野菜は、8〜9月が冷涼で病害虫の発生が少なく、出荷は概ね順調で品質も安定しました。

このような厳しい気象条件下にあつても確かな実りが実現できていることは、ご家族や地域が力を合わせ、弛まぬ努力と長年わたる土づくりや栽培管理技術の高さを現す結果と、あらためて敬意を表します。

農業を取り巻く情勢は、TPPなどグローバル化の流れが進行し、大きな変革の波に対応して行くことが必要となっております。

また、農業の担い手不足・高齢化が叫ばれる中、多様な担い手が活き活きと安心して働き続けることのできる労働環境を構築することが急務と考えます。

北海道は、スマート農業の推進に取り組む、ICT搭載の機械導入が各地で進んでおります。その中で、石狩では、人の手による作業負担を軽減するツールや手法の紹介、地域のニーズに応じた省力化技術を提案してまいります。

今後とも皆さまのさらなるお力添えもいただきながら普及活動を進め、地域力の維持・向上と農業振興を目指します。

結びに、本年が輝かしく豊かな年となると共に、皆様のご多幸と益々のご発展をご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

品目により大きく差が出た厳しい1年を振り返り そ菜園芸振興会 反省会開催！

1

■今年度の青果物販売実績

(平成29年11月末実績)

品目	JA取扱金額 (千円)	前年度末 対比(%)
人参	70,129	30.9
大根	85,314	66.3
さやえんどう	115,341	73.9
スナックえんどう	30,529	77.0
ブロッコリー	366,035	104.0
ミニトマト	166,065	127.7
アスパラ	13,969	126.2
メロン	16,967	94.9
食用馬鈴薯	117,447	55.6
南瓜	3,945	49.0
長芋	6,003	89.1
スイートコーン	7,144	122.1
玉ねぎ	3,993	35.6
種子馬鈴薯	13,033	57.6
育苗	692	62.9
レタス	4,958	101.8
ごぼう	5,571	87.4
直売所・花など	175,711	88.6
販売金額合計	1,202,846	75.6

来年への営農意欲を高められる有意義なものとなりました。

今年度の青果物販売実績(共撰・個撰合計)は次の通りです。



▲丸果札幌青果園中村正喜常務取締役によるご挨拶

11月24日、茨戸ガーデンにて、そ菜園芸振興会の反省会が開催されました。
来賓として札幌市場より丸果札幌青果園中村正喜常務取締役、札幌ホクレン青果園野菜一部藤田雅明副部長、畠山剛典主任のご臨席を賜り、今年の作柄や販売状況などについてご挨拶頂きました。
今年度は平年並みの作柄でしたが、販売単価については品目により大きく差が出る形となりました。果菜類については比較的良好な販売状況でしたが、根物品目については非常に厳しい販売価格となり、全体の販売高としては昨年を大きく下回る状況となりました。
参加した会員もお互いに様々な話ができる久しぶりの機会となり、

青年部 全道大会にて日頃の活動を総括 動画コンテストでJA道女性協会長賞を受賞！！

2



12月7日～8日、札幌パークホテルにて第66回全道JA青年部大会が開催され、当JA青年部員8名が参加しました。全道各地区から約800名が一堂に集結し、「Exciting Innovation on」未来への改革の「スローガン」と、「北海道に夢のある種を蒔こう」の年間活動テーマの下、今日の農業を取り巻く厳しい状況乗り越え、次世代へ引き継ぐための取り組みを強化していくことを確認し、『第66回全道JA青年部大会大会宣言』と『自らが切り開く「未来に誇れる農業」を実現させる特別決議』を満場一致で採択しました。

また大会の中で、農業や青年部等に関する将来への展望・意見提言を行う「全道JA青年の主張大会」や、単位組織や地域への発展が期待される活動事例の発表を行う「第43回全道JA青年部活動実績発表大会」、青年部で人一倍熱い情熱を持った盟友を選出する「純農Boyコンテスト」など、各地区の代表が自らの熱い思いをぶつけていました。他にも、個々の能力向上を目指し全6部門の中から選択する分科会やタレントの壇蜜さんによる『北海道農業青年に向けて』と題した基調講演などが行われました。

また本大会の中で行われたコンテストの「動画で発信！農の魅力」部門で当JA青年部がJA道女性協会長賞を受賞しました。これは農業への興味等を消費者へ働きかけることをねらいとして1分間のCMを作成するというもので全73組中6位以内の入賞であり、出席した部員にも喜びの色があふれ、代表として山内克彦青年部長がJA北海道女性協議会会長青山伸子氏より表彰されました。(この受賞作品は巻末の12ページで紹介しています。)

女性部 『サツマイモ』を使った 新たな加工品にチャレンジ

3



当JA女性部は、今年度からの新たな活動としてサツマイモ加工品事業を開始し、11月21日に役員9名で試作を行い、11月28日の商品作製には会員13名が参加しました。

サツマイモは、青年部が栽培している「紅まさり」と彩り豊かな「パールスイート」の2品種を使用し、『まるdeおさつ』と『ころころおさつ』と言うネーミングで2種類の商品を作製しました。カットして蒸かしたものを冷凍することで甘みが増し、調味料を一切使用していないので、サツマイモ本来の味が楽しめます。

今後とも冬期間を利用して石狩の新たな農産物『サツマイモ』の加工品を地物市場とれのさとして製造販売し、対面販売による消費者交流を実施しながら事業活動を進めて行きたいと考えています。

カルビーポテト試験栽培順調！ 作付者募集中！

4



カルビーポテトの加工用馬鈴薯出荷販売終了に伴い、11月22日、当JA本店2階大会議室において試験栽培実績検討会と栽培技術講習会が開催され、既存生産者4名を含む10名が参加しました。カルビーポテト株式会社馬鈴薯事業本部道央支所支所長の大橋漢氏より「本年度の実績では十勝よりも単収が高い」と高評価を頂き、併せて来年に向けての課題点と詳細な説明を頂きました。

カルビーポテトの試験栽培による作付面積は、昨年度200a、本年度350aとなっており、既存の食用馬鈴薯の栽培方法と同等の栽培において高単収・安定価格が見込めることから、来年は作付面積10haを目指しています。また当該地域においては今後の労働力不足が懸念されており、高収益作物の面積維持・拡大を進める上で、作業受託組織による労働力省力化の検討を図って行きたいと考えていますので、今後ともご理解とご協力を宜しく願います。

※尚、カルビーポテトの作付を希望・検討される方は、営農課までご相談下さい。

事業計画に組合員の意見を反映すべく 秋の地区別懇談会開催！

5



12月4日～7日、当JA本店会場を皮切りとして市内5会場での秋の地区別懇談会を開催しました。

この時期の開催は今年で2回目の試みとなりますが、組合員からの意見の聴き取りと事業計画への反映を目的として行っています。

今回の懇談会では、平成30年度の作成に向けて着手している「第6期地域農業振興計画」と「第6次中期経営計画」の原案について協議し、組合員から各事業に対して多くの意見と要望を頂きました。これらの計画は、今後3年間に向けて当JAが事業展開する上で大変重要なものがあり、皆様より頂いた意見を熟慮してより良い計画と実践に向けて取り進めてまいります。

花畔地区 南線協栄 高田英太郎氏

石狩市産業経済功労賞受賞



11月21日、石狩市総合保健福祉センターにて石狩市産業経済功労賞授賞式が行われ、花畔地区南線協栄の高田英太郎氏が受賞されました。

主な功労として、サツラク農業協同組合の理事として19年間、また、旧石狩地区農業共済組合（現みなみ北海道農業共済組合）の家畜診療所運営委員として昭和59年から6年間、家畜共済制度の発展に貢献されました。永年にわたり石狩市酪農業の発展と振興に寄与され、これらの功績が認められて今回の受賞となりました。

高田さんは今回の受賞に際し「地域の組合員皆様の支えがあって、この度の受賞が出来ました。」とお礼の言葉を述べられました。

役職員・青年部員が
JA北海道大会に参加

11月21日、札幌市教育文化会館にて、JA北海道大会実践フォーラムが行われ全道JAを中心に約1,000名が集結し、当JAも常勤役員・青年部役員等合わせて7名が参加しました。

この大会は、第28回北海道大会のメインテーマである、北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実践状況について、JAグループ全体の共有を図るとともに実践への機運を高める事を目的に行われました。

フォーラムでは「協同の力で実現する新規担い手倍増に向けて」・「食と農でつながるサポートタ―550万人づくりと准組合員制度」の2つをテーマとして優良取組JA事例の発表後にパネルディスカッションが実施されました。

当JAでも、組合員の高齢化による担い手不足に対応すべく、組合員の子弟の後継者確保・育成と新規参入者の積極的な受入による地域農業の確保、また石狩市民を中心として准組合員に農業・農協事業へ参画してもらうためのサポートタ―づくりを更に進めるためにも有益なフォーラムでした。

石狩産野菜が大人気！ 北のアメ横さっぽろ2017に出店



11月17日～19日、アクセスサッポロで北のアメ横2017が開催、道内から厳選された逸品が集められ、当JAも出店して石狩産野菜といしかり漬け、焼酎「芋男氣」などを販売しました。初日には、STVテレビ



の生中継「どさんこワイド」のレポーターが訪れ、営農課の寒河江職員が出演しました。その宣伝効果と野菜の高騰も影響してか当JAメインの詰め放題コーナー（玉ネギ・人参・馬鈴薯）は長蛇の列をつくり、他にも長ネギ・ゴボウ・ブロッコリーなども大人気で新鮮野菜が飛ぶように売られていました。

3日間合計で来場者が4万4千人、売上実績は対面販売・詰め放題を合わせて938,580円となり、石狩産農産物の美味しさをPRできました。

新連載!!



・・・連載開始にあたり・・・

今月号から新連載がスタートします。これは、石狩市出身で新規就農者である遊佐さんが農業者になるまでのエピソードや日頃農業に携わっている中で感じたことなどを皆さんに是非お伝えしたく企画しました。

一、はじめに

平成29年10月29日、花畔宮農地
域開発組合の秋季排水掃除のときのことでした。普段あまりお目にかかれない先輩農業者の方々から「あんたが新規就農の遊佐さんかい。ええっ。来年還暦かい？いやあ、若い人が来てくれてよかったア。。。。」と声をかけていただきました。

私は陸上自衛隊を3年前に定年退官しましたが、なんと定年した自分が若いと言われるなどは、全く夢にも思わないことでした。どうやら石狩市花畔地区の第一線農業者の平均年齢は70歳前後のようので、私はひと回り若いことになりました。いわゆる、若造・還暦おやじなわけですが、これから新人農業者としての取り組みや苦労等について、人生の初心にかえったつもりで紹介させていただきたいと思えます。

二、きっかけ

こんな若造・還暦おやじの私がどうして農業者になったのか？まずは、農業者を目指したきっかけについてお話ししましょう。

平成18年夏。私は、福岡県飯塚駐屯地の第2施設群という部隊で勤務しておりました。当時、第2施設群は筑豊（ちくほう）地域の一部の市町を警備分區として、いざという時に出勤できるべく、平素から市長さんや町長さんとの連絡を密にして有事に備えた教育訓練に励んでいました。また、私にとつて初めての九州勤務であったため、地域の状況を早急に把握したいと考え、よく地域内をみて歩いておりました。

ある時、桂川（けいせん）町というところで合鴨農法を実践し、とれた米から酒を造り、太らせた合鴨を肴に晩酌を楽しむ農家があることを知りました。できた清酒が一鳥万宝（いちちようばんぼう）という名前で、「合鴨農法・無農薬米使用」と書かれていました。酒の名前について次のような説明がありました。「合鴨を水田に放すと、悪者であったはずの雑草や害虫はアイガモの餌となり、肉となります。又、糞は稲の養分となり、ついには米となります。つまり人間にとって有り難い資源となります。それは、一石二鳥ではなく、一鳥万宝の世界なのです。。。。」と。こうしてできた無農薬米で醸造されたのがこの酒でした。

これだ!! 将来自衛隊を定年したら合鴨農法をやってみよう。そう思ったのが現在の新人農業者へのきっかけとなりました。

その後、再び防衛省勤務となり、平成20年の8月に夏休みで石狩に帰省した際、さっそく行動を起こすことにしました。妻と二人で自転車に乗って休耕している田んぼを探し歩いたのです。自宅から近い生振地区でした。当時世間では耕作放棄地のニュースが多く、本州や九州では新たに農家になった人たちのことが頻りに報じられていたこともあって、定年後は石狩にリターンして農家になるかと漠然と考え始めていたので。しかし、どこも青々とした稲が成育しており、休耕している田んぼなど見つかりそうにありません。

翌日、今度は方針を変更して役所を訪ねることにしました。農業委員会という組織があることを誰かから教えてもらい相談することにしたのです。私の第一声は、「合鴨農法というのをやりたいのですが、石狩市内にどこか使われていない田んぼはありませんか？」でした。私の唐突な質問に対して、農業委員会事務局の担当の方が丁寧に対応してくれました。最初の質問はこうでした。

「あなたは農地法第3条のことはご存じですか？」

「私は現職の自衛官ですので、自衛隊法のことなら知っていますが。。。。」



「農地法ではだれもが農地を持つるわけではありません。まずは農家になることが必要なんです。」
「どうすれば農家になれるのですか？」
「というようなり取りの末、紹介されたのが石狩市農業総合支援センターでした。」

さっそく訪ねたところ、担当者から、この辺では誰も合鴨農法をやっていないことをはじめ、農家になるならば施設栽培でミニトマトに取り組んではどうか等々懇切な説明と、将来農業研修が必要であることなどのアドバイスをいただきました。この時の夏休みが終わりました。定年になる6年前のことでした。（次号に続く）

（平成29年12月1日記）



平成30年度 営農計画受付日程について

平成30年度営農計画書の受付を下記日程及び内容により全組合員を対象に実施します。

◇ 1号様式該当の組合員

受付日時・場所

地区	受付月日	午前の部 (9:00~12:00)	午後の部 (13:00~17:00)	受付 場所
石狩	1月15日(月)	大曲、大曲中央、八幡町、石狩個人	北生振1班(※旧)	本店 2階 大会議室
	1月16日(火)	五の沢、高岡第4	高岡第3	
	1月17日(水)	北生振3班(※旧)	北生振2班(※旧)	
	1月18日(木)	高岡第5	美登位	
	1月19日(金)	高岡第1	高岡第2	
生振 花畔	1月22日(月)	花畔北区、花畔個人、生振第3	花畔農住	花畔支店 2階 会議室
	1月23日(火)	花畔中央、新道、上組	生振第1	
	1月24日(水)	生振第5、6、7	生振第2、3、4	
	1月25日(木)	南線協栄、樽川、生振個人	生振第8	

◇ 2号様式該当の組合員

受付月日	受付時間	対象地区	受付場所
1月15日(月) ~ 1月19日(金)	9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 16:00	石狩地区組合員	本店 金融窓口
1月22日(月) ~ 1月25日(木)	9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 16:00	花畔・生振地区組合員	花畔支店 金融窓口

その他：クミカンの印鑑をご持参ください。

◇ クミカンを利用しない組合員

受付月日	受付時間	対象地区	受付場所
1月15日(月) ~ 1月19日(金)	9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00	石狩地区組合員	本店 2階 大会議室
1月22日(月) ~ 1月25日(木)	9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00	花畔・生振地区組合員	花畔支店 2階 会議室

その他：事前を送付済みの営農計画書に必要事項を記入し、印鑑をご持参ください。

営農計画作成にあたっての留意事項

- ア. 家族及び農業従事者等で十分協議し営農計画を作成して下さい。
- イ. 農産物の作付は、土地条件、労働力等を十分に考慮し作成して下さい。
- ウ. 前年度の営農計画とその実績を点検し、課題点と改善事項に基づいて作成して下さい。
- エ. 営農計画書を作成提出し、収支のバランスが伴わない場合は、再度作成協議致します。

※お問い合わせは **営農部営農課 (0133)66-3344** までどうぞ。

不動産所得申告受付日程

日程	地区		受付時間	受付場所
	午前の部	午後の部		
1月17日(水)	石狩地区・花畔北区	花畔中央・上組	午前の部 9:00~12:00 午後の部 13:30~16:00	花畔支店 (2階) 会議室
1月18日(木)	農住	新道・南線協栄・個人		
1月19日(金)	樽川	生振		
1月20日(土)	その他(※)		9:00~14:00	

※1月20日(土)は予備日です。指定日に来店出来ない方などに対応させていただきます。

※お問い合わせは **花畔支店金融課 (0133) 64-2205** までどうぞ。

農業所得申告受付日程

平成29年度営農の締めくりとなる農業所得申告が下記の通り当JA本支店で行われますので、該当の日時を忘れずにご出席ください。

申告期間

平成30年2月13日(火)~3月2日(金)

会場	日程	農事組合別申告受付時間			
		時間	組合名	時間	組合名
本店	2月13日(火)	9:00~ 12:00	大曲	13:00~ 17:00	高岡5・北生振3
	14日(水)		北生振2		美登位・北生振1
	15日(木)		高岡4		高岡3
	16日(金)		高岡2		高岡1
	19日(月)		五の沢		
花畔支店	20日(火)	9:00~ 12:00	花畔農住	13:00~ 17:00	花畔農住・個人
	21日(水)		花畔北区		南線協栄
	22日(木)				
	23日(金)	9:00~ 12:00	上組	13:00~ 17:00	花畔中央
	26日(月)		樽川		樽川・新道
	27日(火)		生振1		生振4・生振5
	28日(水)				
	3月1日(木)	9:00~ 12:00	生振8	13:00~ 17:00	生振6
	2日(金)		生振2		生振3・生振7

平成30年度 免税軽油申請手続きのお知らせ

平成29年12月に送付済みの書類内容をご確認の上、下記の通りご提出ください。

提出期日 平成30年1月12日(金)厳守

提出書類

- ・平成29年度使用免税軽油受払状況等集計表(受払日報)
- ・平成30年度申請に伴う機械台帳変更等報告書
- ・平成30年度免税軽油申請受付書類(作付計画書)

提出先	対象地区	受付場所
	石狩地区	本店資材課
	花畔・生振地区	花畔支店金融窓口

※お問い合わせは **経済部資材課 (0133) 66-4488** までどうぞ。

おくやみ

花畔地区 花畔中央
森本 利春 さん
享年67歳
平成29年11月19日逝去

石狩地区 個人
出塚 正勝 さん
享年93歳
平成29年11月21日逝去

謹んでお悔やみ申し上げます。



完
—青年部—
1分間CM



青年部「1分間CMコンテスト」受賞作品

12月8日に行われた第66回全道JA青年部大会の「動画で発信! 農の魅力」コンテストにてJA道女性協会会長賞に選ばれた受賞作品です。(6ページ参照)

尚、入賞作品は平成30年2月に東京都で行われる第64回JA全国青年大会にて放映予定、また、北海道農協青年部協議会のホームページと札幌市中央区の北農ビル1階でも近々公開予定とのことです。